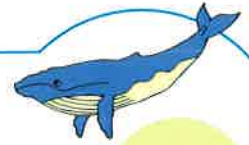


にっせんかい

# 日扇会ニュース



vol.42

2017年

地域の皆様と日扇会の意見交換・情報提供のための紙面です



(上高地梓川の清流)

## 区民健診が始まりました(6月～11月)

健康診断はご自分の心身の状態を知る上で、とてもお役に立ちます。毎年、多くの方が受診されており結果について、過去の健診データと比較してご説明させて頂いております。例年、10～11月は大変込み合いますので、早めの受診をお勧めいたします。お手数料をお掛けいたしますが、受診も結果のお知らせも予約制ですので、ご了承頂きたいと存じます。

なお、予約方法、健診内容などに、ご不明の点がございましたら、受付や看護師に遠慮なくお申し出ください。詳しくは「ホームページ」(末尾にアドレスあり)をご覧ください。



## 地域包括ケア病床の増床について

医療保険上、様々な種類の病棟・病院があります。各病院の施設基準として明示されており、ニュースなどで目にする機会もある「7:1病棟」、「10:1病棟」、「地域包括ケア病棟」、「回復期リハビリ病棟」、「医療療養型病棟」などがそれに該当します。これだけでもかなりの種類がありますが、医療療養型病棟1、医療療養型病棟2などと各病棟が更に細分化されています。

病棟の種類毎に例えば、病室の広さ、廊下の広さから看護師などスタッフの人数、入院できる期間（平均在院日数）まで、その条件が細かく規定されており、かかる費用も異なります。この基準がクリアできないとその病棟として認められず、診療を行うことができなくなります。そこで各医療機関とも基準をしっかりとクリアしながら日々の診療にあたっているわけです。

各医療機関がどの種類の病棟を選択して体制を作っているかで、どんな病院・病棟を目指しているのか、医療機関としてどんな役割を果たしているのかが見えてきます。

当院は「かかりつけ医として地域医療に貢献する」を使命とする病院です。在宅療養支援病院として、在宅医療にも積極的に取り組んでいます。そうした役割を果たしていくうえで、地域包括ケア病棟が足りないと感じており、地域包括ケア病床を増床すべく準備を進めています。

### 地域包括ケア病棟とは

地域包括ケア病棟とは、2025年以降の超高齢化社会の中で、地域医療・在宅療養を支える病棟として平成26年に新設された病棟で、地域医療・在宅療養を支える中核として必要な機能を有する病



地域包括ケア病棟

棟をいいます。

その中身は①在宅や施設等で療養している患者さんの急性増悪を受ける入れるサブアキュート（重装備な急性期入院医療までは必要としないが、在宅や介護施設等において症状の急性増悪した状態）機能、②急性期治療を終えた患者さんの継続的治療やリハビリなどを中心とするポストアキュート（急性期経過後に引き続き入院医療を要する状態）機能を重点的に担い、そして③在宅復帰に向けた支援機能を持った病棟です。

高齢化が進むにつれて当然医療ニーズは増加することが予想されます。一方、少子化も進むことからこれ以上財政負担をかけられない、つまり病床を増やすわけにもいかず、今ある病床の役割分担を明確にして、効率化を図ることが求められているのです。

救急医療については、重症については従来どおり救命センターなどで対応するものの、中等症・軽症な救急については、その全てを救命センターで対応するのは不可能です。そうした救命センターでの対応が不可欠なほど重症ではない救急（サブアキュート）に対して地域の医療機関での対応が求められています。また、救命センターなどの高度急性期病院は、集中管理が出来る体制を整える一方でその体制が必要不可欠な時期のみに特化し、集中治療を脱したらすぐに退院とし、空いたベッドで次の急患に対応することが求められています。つまり、入院可能期間が非常に短く設定されています。



院長  
やっじ さとる  
八辻 賢



しかし、集中治療を脱しても継続的に治療が必要になる病気は多々あります。更に、家に帰れば病気の治療・療養だけでなく、すぐにでも食事やトイレ、入浴などの日常生活が始まります。入院中は看護師を始めとする援助がありますが、家に帰れば患者さん御自身、若しくはご家族が支えて日常生活を送っていかなくてははいけません。

高齢者の場合、病気が落ち着いても体力の低下からそうしたことがすぐには出来ないケースも多くあります。そのためにもリハビリが必要であったり、在宅生活を支える様々なサービスの手配などが必要です。

在宅生活を支えるご家族にしても、様々な知識や手技を習得する時間が必要です。そうしたことをしっかりと行うためにも集中治療を脱した後、在宅療養につなげる医療（ポストアキュート）が必要です。

サブアキュートとポストアキュート、そして在宅復帰支援機能といったニーズに応える病棟として設置されたのが、「地域包括ケア病棟」です。地域包括ケア病棟という制度ができたのは平成26年の診療報酬改定からで、まだ数年の歴史しかありません。しかし、上記の様な機能は地域医療を担



地域包括ケア病棟

う医療機関の中ではその必要性が以前より指摘されていた機能であり、やっと保険上も認められるようになりました。当院も、「かかりつけ医」として必要な機能を模索する中で、在宅医療を強化し、訪問看護、在宅支援センター（ケアマネ）、リハビリの充実に取り組んできました。病棟でも病気の治癒のみならず、在宅復帰できるところまでをゴールと定義して入院医療に取り組んできました。その集大成が地域包括ケア病棟であるといえます。

今回の地域包括ケア病棟の増床を経て、これまで以上に、「かかりつけ医」として地域医療に貢献できるように機能を強化してまいりたいと考えております。

## 皆様からのご意見（29年1月～6月・ご意見箱投函分）

### ご意見（要旨）

外来

予約時間が過ぎたが、まだ診察して貰えない。

病棟

入院患者を見舞いに行ったとき、男性の介護スタッフが他のスタッフを呼び捨てにしていた。マナーをしっかりと指導されては、と思う。

外来

診察室など物が沢山置いてあり、気も散る。もう少し整理できないか。図書の選定にも気を配って欲しい。

### 当病院の考え・対応

患者さんが予約時間に遅れて来られたため、次の患者さんを先に診察したケース。

外来職員の気配り不足が原因で、ご迷惑をお掛けいたしました。なお、遅れて来られたときは直ぐご連絡を頂くことも一つの方法です。ご協力をお願いいたします。

ご指摘の通りで、不快な想いを抱かれたことを深くお詫びいたします。と同時に改めて応接の基本を指導いたしました。ご指摘有難うございました。

確かに、置き過ぎの点があると思います。心地よく診察を受けて頂けるように、極力整理いたしてみます。また、待合室の図書についても更に見直してみます。ご意見を頂き有難うございました。

いんない

## 院内ラリー



## 訪問看護ステーションのお知らせ

所長 岡本 由利子



初めまして。日扇会訪問看護ステーション所長の岡本と申します。

病院は身近に感じられる方も多いと思いますが、訪問看護ステーションと聞くと頭の中にクエスチョンマークが思い浮かぶ方が多いのではないのでしょうか？ 今回はそのご紹介です。

1、人は必ず歳を取ります。今は関係ないと思われるかもしれませんが、いつか誰かの面倒を見ることになるかもしれない現実、若しくは自分自身が誰かの助けがなければ生きられなくなる現実が差し迫ってくるかもしれません。そんな時に、是非「訪問看護」という言葉を思い出して頂きたいと思います。私達、訪問看護に携わる看護師は、日々、様々なご家庭にお伺いして看護を提供させて頂いております。

2、私達の仕事は、医師の指示を受け週に1～2回、定期的に看護師がご自宅に伺い「体温、血圧脈拍などのバイタルサインのチェック、療養上のお世話（入浴介助、清拭、洗髪など）や医療処置（カテーテルの管理、点滴・注射、褥瘡管理、排便コントロールなど）」を行うことで、日々病状の観察や生活の援助をさせて頂いております。

3、最近では、①慢性疾患をお持ちになるご高齢の方の増加、②家族構成の変化にともなう家族介護力の低下、③早期退院と在院日数の短縮の推奨、④居宅での看取りの増加など様々な要因で訪問看護のニーズはどんどん増えてきております。

このような状況に対応すべく、私たちは病気の一面だけでなく、患者さんの生活全体をみて日々のケアにつなげていくことが、より大切だと考え基礎能力と専門的能力の習得に日々努めております。

お陰様で、日扇会訪問看護ステーションは、今年で22年目を迎えることが出来ました。これからも、地域の皆様がご自宅でもより良い生活を送ることができるよう、私達、訪問看護師は頑張っていきたいと思っております。

今後とも、お気軽に声をお掛けください。お待ちしております。



## 編集発行人

医療法人財団 日扇会

〒152-0031

目黒区中根2-10-20

TEL：03-3718-7281(代表)

FAX：03-3718-7736

ホームページアドレス：

<http://www.nissenkai.or.jp/>

季刊紙 発行日：7月31日

理念 医療は患者さんのために存在する

使命 患者さんの「かかりつけ医」として地域医療に貢献します

## 基本方針

1. 私たちは、患者さんの権利と人格を尊重した医療を行います
2. 私たちは、プロとしての責任と誇りをもって自己研鑽に励みます
3. 私たちは、病院全体の力を結集して患者さんを支えます
4. 私たちは、信頼される医療を継続するため徹底したリスク管理を行います
5. 私たちは、全職員が思いやりとやりがいを持って医療を行う活気ある病院を作ります
6. 私たちは、担うべき役割を将来とも継続的に果たすため、安定した経営を維持します

